

東海道草津宿関係史料 (庄屋駒井与左衛門家文書) (四)

小林 博

〔駒井家文書 一五ノ一〇〕

(この一五ノ一〇の前半は社寺関係、ここでは略)<sup>(1)</sup>

一 元禄拾四年

江州栗太郎志図庄  
草津町明細帳

巳六月

覚

一高千五百五拾七石貳斗貳升

草津宿

内

六百八拾五石七斗貳升

上田四拾四町五反貳畝拾八歩  
但し尨石五斗四升代

貳百三拾八石四斗六合

中田七町三畝廿七歩  
但し尨石四斗代

百貳拾尨石七斗七升九合

下田九町三反六畝貳十三歩  
但し尨石三斗代

三百六拾貳石六斗四升五合

荒田貳十五町尨畝  
但し尨石四斗五升代

六拾石五斗尨升五合

上々畑四畝六反五畝十五歩  
但し尨石三斗代

貳拾三石九斗八升

上畑貳町尨反八畝  
但し尨石尨斗代

八石六斗五升五合

中畑九反六畝五歩  
但し九斗代

尨石四斗

下畑貳反  
但し七斗代

拾三石五升

荒畑尨町四反五畝  
但し九斗代

三十九石四升三合

屋敷三町拾歩  
但し尨石三斗代

四石七斗

屋敷三反七畝  
但し尨石尨斗代

田畑合百八町七反六畝八歩

分米合千五百五拾七石貳斗貳升

右百年以前慶長七年小堀新介様御檢地水帳御座也

右高之内

高五拾石

常善寺領

高三拾八石六斗五升三合

御伝馬百疋地子被下  
町裏川瀬達ニ付八年以前

高尨斗貳升六合

元禄七戌年永引

残高千四百六拾八石四斗四升尨合

御黒印ノ分草津惣高

内

一 拾九石壹斗六升七合

社領高式拾三石矢倉村と割  
此被下様之訳奥ニ御座候

一 三百七拾五石六斗九升五合永荒高

一 百拾五石四斗

留主川分

一 毎年拝領之覚

一 御米三拾六石五斗四升八合

御飛脚給米ニ  
被下候

一 寛永十四年ノ毎年金丸五左衛門様御代官ノ頂載

一 人馬役人四步六步ニ割配分仕候

一 御米七石

從御公儀様間屋給分ニ被下寛文五己年ノ毎年  
大津御藏ノ頂載仕候

一 御米百五拾九俵

殿様ノ毎年拝領天和三亥年ノ馬持之  
向五十三人へ三〇ツ、被下候

一 御金五拾両

殿様ノ毎年拝領是ハ万治三子年ノ御  
金五百兩之從御公儀様永拝借被仰付  
膳所様ノ郷中へ御借付被下其利金五  
拾兩ツ、毎年頂載人馬役人七步三歩  
割配分仕候

一 金子三歩者

膳所様へ上ル草津領分馬運上ニ四年  
以前寅年ノ膳所様へ上ル

一 往古ノ式法之覚

山寺村へ遣ス是ハ公郷野池番料ニ毎  
年遣ス

一 米壹俵者

同所へ遣ス日干之年公郷野池樋ノ口  
明候節遣申候

一 酒五升

山手ニ遣ス大津郷立合山々分毎年部  
田村岡元村毎年ニ遣ス

一 錢三百文

一 宿中家数貳百九拾四軒

一 九拾七軒

馬役家内六軒八半馬役

一 東本願寺宗直末寺

傳久寺

一 本尊木佛阿弥陀立像

長貳尺三寸

九拾壹軒 步役家

百六軒 隱居借家後家無役人

右之内貳拾七軒 留主川ニ御座候

一 宿中人数男女貳千四十八人

一 当春御改宗旨帳書毎年増減御座候

内

男九百七十九人 内十五ノ上ノ男七百一十二人

女千六拾九人

右之人数之内百貳拾人留主川ニ御座候

一 淨土宗京知恩院末寺 佛国山地藏院 正定寺

本尊木佛阿弥陀 長三尺

脇立觀音勢至 長壹尺六寸三分ツ、

各惠心之作立像ニ御座候

縁起之義百四十七年以前弘治之卯年十一月寺煙

燒仕紛失無御座候

一 淨土宗京誓願寺末寺宝樹山真願寺

本尊木佛阿弥陀立像 長壹尺三寸五分

慈覺大師作

開基中興信譽上人永祿元年建之

当年迄百十四年ニ成申候

一 東本願寺宗直末寺

本尊木佛阿弥陀立像 長貳尺三寸

三拾三年以前寛文九酉年本寺の寺号木佛免被成候

兩脇太子七高祖之御影御親鸞上人御影

六字十号名号

開基善徳慶長十九甲寅年当年迄八十年ニ成申候

一西本願寺宗直末寺

淨教寺

本尊木佛阿弥陀立像

長貳尺五寸

三十九年已前寛文三年卯年本寺寺号木佛御免被成候縁起無御座候

開基之義百六年以前慶長元丙甲年教恩と申坊主

建立仕候

一佛光寺宗直末寺

鈴風山養專寺

本尊木佛阿弥陀立像

長三尺ニて聖徳太子ノ作

兩脇釈迦御影託摩ノ筆

繪像阿弥陀善尊法然古筆ニ候へ共筆者知不申候

親鸞上人御影十七年以前貞享乙丑年本寺の

申請則本寺ノ絵師織部と申者筆

縁起之義ハ百九十六年已前永正三兩寅年当寺火

ニ焼之時分親鸞上人ノ繪光明本尊と申繪源海上

人讚文開山自筆之聖教縁起等焼失仕縁起無御座

候開山自筆之聖教ノ切レ焼残り今少御座候

一佛光寺宗末寺

真教寺

本尊木佛阿弥陀立像 長壹尺九寸八十一年以前

元和七辛酉年本寺の寺号木佛御免被成候

開基之儀天正十七巳丑年法西と申坊主取立申候

当年まで百拾三年ニ成り申候

一日蓮宗立本寺末寺 法性山圓融寺

本尊釈迦多宝坐像 長壹尺五分宛

脇立上行菩薩 淨行菩薩 立像長三寸五分宛

文殊菩薩 不動立像 長三寸三分宛

普賢菩薩 愛染 同 長九寸七分ツ、

四天王 同 長五寸三分ツ、

鬼子母神 同 長三寸五分

十羅刹女 同 坐像長三寸五分

日蓮聖人 各古作ニ御坐候得共作者しれ不申候

開基行寂院日元正親町院御宇永禄二己未年建立

当年迄百五十三年ニ成り申候縁起之義者三十三

年已前寛文九年酉十二月類焼之節焼失仕無御座

候

一東本願寺宗金福寺末寺留主川圓教寺

本尊木佛阿弥陀立像 長貳尺貳寸

貞享四卯年本寺の寺号木佛御免被成候

兩脇阿弥陀六字名号日進者古筆ニて御座候得共

筆者知レ不申也

開基之義尊心申者無御座候中興元和九癸亥年道順と申坊主建立仕候当年迄七十九年被成申候

一正一位立木大明神

本社 東西貳間五尺四寸  
南北貳間四尺六寸

鎮座神護景雲元年

境内 東西七拾壹間三尺三寸 往古の除地  
南北六十壹間

拜殿三間四面四方ニ半之縁御座也

御興家三間半ニ貳間半

末社數拾壹社 棟數拾軒

内大將軍貳尺五寸ニ四尺 熊野權現貳尺五寸ニ三尺

広田大明神一尺九寸ニ三尺四寸多賀大明神貳尺五寸ニ貳尺六寸

辨財天貳尺ニ貳尺九寸 龍田大明神貳尺五寸ニ四尺

加茂上三尺五寸貳尺九寸 山王權現貳尺六寸ニ四尺

牛頭天王貳尺八寸ニ四尺五寸 稻荷大明神貳尺五寸ニ四尺

樓門梁老間四尺壹寸 桁行貳間

築地八間ニ四尺五寸

護摩堂梁貳間 桁行三間

社領高貳拾三石内拾九石一斗六升七合 草津  
三石八斗三升三合 矢倉

是者寛永十一戌年 御公方様為御祈禱石川主

殿頭様を御付被成候其後慶安四卯年本多下総

守様御入国被遊候以後只今ニ至リ御付被成候

祭礼四月初ノ日

夜宮神事之当取貳人社參其上おとりも御座候  
翌当日 おとり御興 神更当取貳人社馬貳正

獅子頭 神主乙女其外ねり物多少御座候

御旅所矢倉村之内れつけいと申所

境内 東西三十四間  
南北三十四間半  
道東西八十六間

同所ニ小社貳尺三寸ニ壹尺六寸

外ニ矢倉村町之内御休所小社御座也

宮付之社僧老人天台宗庵室前ニ御座也

神主老人町家ニ居申也小野左太夫と申也

是ハ明神鹿嶋る鎮座之節御供致候家筋にて御座候

乙女老人 町家ニ居申也

祢宜老人 同断

御弓正月六日二月十日兩度御座也

但し二月十日の十二日迄町へ出入仕候商人ニ  
十分老を取宿中会仕候

御火燒霜月中ノ日

さうもく九月十日

如法堂三重土台ニ而三尺六寸四方

鳥居石高サ老丈八尺ふとさ老尺八寸

神木柿ノ木本社戌亥ノ由ニ有リ

榊 鳥居ノ内ニ御座候

石燈籠六本 高サ六尺

駒犬 一對 高サ壹尺五寸

大般若經古来の相勤申

正月十六日國家為御祈禱每年勤申

一有馬八拾壹疋

一牛 七疋

留主川ニ御座

一御高札 七枚

御伝馬札

忠孝札

毒藥札

きりしたん札

捨馬札

増駄賃札

年季札

右之通相違無御座以上

草津町庄屋

清右衛門

左右衛門

御奉行様

二 帳書 延享四年卯正月

地方書上帳扣 草津宿

寛

一 高千五百五拾七石貳斗貳升

慶長七年小堀新介様御檢地

内

五拾石 常善寺領

千五百七石貳斗貳升 草津

内

三拾八石六斗五升三合 御公儀様被下候

御傳馬地子壹万歩高

残高千四百六拾八石五斗六升七合

内

六斗四升八合 表屋敷地永引

拾九石壹斗六升七合杜領米ニ被下候

但し貳拾三石矢倉村との割

一 高四石三斗八升壹合

地頭起

延享二丑年の上納

一 米 貳石

赤根川 南堤請所御年貢

砂川 延享二丑年の上納

右之通御座候此外新田畑荒地等曾而無御座候  
諸運上小物成無御座候

一 草津宿町数九町

此町間七百拾間余

一 草津宿家数 貳百拾八軒

但し 社人隠居家共

外ニ拾六軒 苗主川家数

一 草津宿人数男女合千三百拾五人

但し 下人 苗主川とも

一 米 貳百拾九俵

右者天和年中ノ御傳馬住家之内難持立者

七十三人

殿様ノ毎年頂戴仕候

一 御金五百兩

右者万治三子年永御拝借被為仰付宿中配分仕候其後右配分之金子一兩ニ付錢五文ツツ毎日

取集メ金五百兩分之銀三拾貫目ニ罷成時ノ一

割利付ニ郷中へ御仰付被下右之利足銀毎年三

貫目ツツ御地頭様ノ御取立宿へ年々配分仕候

一 御米四拾三石五斗四升八合

内

米三拾五石六斗四升九合者為御飛脚給寛永十

酉年ノ毎年御公儀様ノ頂戴仕候

米八斗九升九合右天和三亥年ノ石部山道道五町五

十四間分御増頂戴仕候

米七石 右者寛文五巳年ノ問屋肝煎給として毎年

頂戴仕候

一 御金 五拾兩 馬買金

一 御金 百八拾兩 同飼料金 人足扶助金

右者享保十巳年御公儀様ノ頂戴仕候御地頭様ノ一

割五分之利付ニ御かし付被成利足金毎年配分仕候

一 御金 三拾貳兩貳步

右者正徳二辰年ノ御役所被仰付候諸入用として乾

金六拾五兩被下候処大金ニ成半減ニ相成リ候而只

今至リ如此 御公儀様ノ毎年頂戴仕候

右書上之通相違無御座候以上

卯正月

草津宿庄屋

治郎八

又兵衛

問屋肝煎

平左衛門

助之丞

御奉行様

三

享和三亥年二月

御分間御絵図御用

宿方明細書帳

東海道

草津宿

領主本多隠岐守

一 近江国栗太郡 草津宿 膳所領

一 江戸江道法百拾五里余

一 江戸之方石部宿江道法貳里半拾七町五拾五間

一 上之方大津宿江道法三里半六町

一 往還通江戸之方江道拾貳ヶ所

内 中山道守山宿道法壹里半

山田浜江道法壹里六町

其外者野道并近郷へ村道木ノ川村へ道法九十五町程

一 往還通江戸之方左之方道拾三ヶ所

内 近江国甲賀郡金勝寺江道壹ヶ所道法凡九三里

多羅尾四郎治郎様御陣屋近江国甲賀郡信楽

多羅尾道壹ヶ所道法凡九里余

其外者野道寺并近郷村道追分村へ道法拾町部田村道法十五町

右之外ニ

膳所城下江道法三里

但シ往還通り間之道ニ御座候得共領主城

下ニ付書加へ申候

矢橋江 道法壹里八里

但シ 矢倉村之右へ入口道ニ而同村之も

可申上候得共継場ニ付書加へ申候

慶長七年御檢地

一 宿高千五百五拾七石貳斗八升

内

五拾石 御朱印 常善寺

三拾八石六斗五升三合 御傳馬地子

殘高千四百六拾八石五斗六升七合

内

千三拾貳石八斗三升七合 田方

四拾三石壹斗壹升三合 屋敷

拾六石九斗貳升貳合 畑方

三百七拾五石六斗九升五合 永荒無地高

一 加宿枝郷高等無御座候

江戸方大路井境之上方矢倉村境迄  
一宿内往還長七百拾間半 道幅三間余

但宿内町並 東北貳町 西北七町 町敷九町

東横町 西横町 壹町目 貳町目 三町目

四町目 五町目 六町目 宮町

一 右往還道橋普請之儀者領主の御座候

一 往還通宿内折曲り老ヶ所

一 往還通り山坂等無御座候一躰平地ニ而御座候  
名所等無御座候

享和三亥年改

一 宿内人別式千百九拾人内

男子六拾三人  
女 千百式十七人

外ニ宿地内

一 苗主川人別九十五人内 男四十九人  
女四十六人

同

一 右家数 拾八軒

一 宿内惣家数 五百式拾貳軒

内

貳百軒

本家之分

但右之内式拾老軒ハ去夏流出仕未タ

家作出来不申候

三百拾貳軒 借家之分

内

本陣

間口拾九間  
建坪貳百拾九坪半  
玄關高麗門老ヶ所

領主除地

貳町目九藏

同

脇本陣

同

旅籠屋

七拾貳軒

大 五軒

中 貳拾軒

小 四拾七軒

一 地子御免許

老万坪

但 高三拾八石六斗五升三合

一 御金三拾貳両貳步

右者御改所為諸入用道中御用金之内於江戸表

御渡被遊候由ニ而領主の年々頂戴仕候

一 御米七石

間屋給

右者年々信楽於御役所奉請取問屋役者共頂戴

仕候

一 御米三拾六石五斗四升八合 御飛脚給米

右者年々信楽於御役所奉請取御繼飛脚御用相

勤候者共頂戴仕候

壹町目

七左衛門

貳町目

治郎左衛門

貳町目

與左衛門



江戸右之方 高サ老丈三尺  
御高札場 長サ老丈五尺  
横五尺五寸 石垣高サ尺六寸

右御高札場江戸右之方東海道中山道追分ニ  
御座候普請之儀者前々領主御座候

一 御高札墨入之義者領主取扱来リ申候

一 正徳元年御高札六枚

内

御傳馬 御高札老枚

忠孝 御高札老枚

切支丹 御高札老枚

毒薬 御高札老枚

火附 御高札老枚

駄賃 御高札老枚

一 明和七年四月強訴御高札老枚

一 正徳元酉年被仰付候  
諸荷物貫目御改所

但し問屋場ニ而立會取斗相勤申候訳別紙

帳面奉差上候

一 問屋場 老ケ所

去ル戌六月迄ハ四町目江戸右側ニ御座候得

共去夏洪水ニ而流失仕候ニ付左側方ニ当分飯  
リ問屋ニ而相勤罷在候

問屋

貫目改役当 四人

年寄 三人

馬指秤取兼 五人

人足指秤取兼 六人

下働 六人

但日々当番問屋老人 年寄老人 馬指式人

人足式人 下働式人

右之通日々相催御繼立仕候

右之外名主式人日々見廻リ申候

其之外地下方年寄式人組頭十八人御座候

一 御定人馬之支

一 御朱印御證文其外御用御往来并諸御通行御繼立  
方平日仕来候訳

御通行多時者宿役人不残罷出繼立仕候

一 御朱印御證文之儀者宿人馬ニ而相勤申候尤宿人

馬遣拂候節者助郷へ触当御繼立仕候御用御通行

御大名様方并平日諸御家中方其外御通行の方々

御繼立も右同様宿人馬ニ而相勤其外助郷江觸立御繼立仕候

一 江戸京大坂其外御證文附御状箱御用物御繼立方之訊問屋年寄立會於問屋場奉拜見持夫之もの定置順口ニ而御繼立仕候差添ひ候節者手馴候もの雇立御繼立仕候

除地  
一 正一位立木大明神 鎮座神護京雲元年

御社領高式拾三石 領主ノ寄附  
右往還並ニ江戸ノ右之方境内東西七拾間余  
南北六拾間余

右境内ニ

本社 中門 瑞籬

拝殿 楼門 神樂堂

神輿藏 築地 石ノ鳥居

御手洗池 石燈籠 妙法堤

右之内四ツ脚楼門并左右築地者鈎之御所様御寄附と申伝候

但し足利九代吉尚公上鈎寺内村御本陣被為遊候

旧地鈎之御所と申傳御座候

末社一棟 石川主殿頭様御寄附

多賀大明神 龍田大明神

稻荷大明神 加茂上明神  
加茂下明神

末社一棟

愛宕権現 弁財天女

山王権現 牛頭天王

広田大明神 大將軍

本地堂 天台宗山門正覚末寺

普賢院 神宮寺

右境内名木名水等無御座候

宿内往還並住居仕候 立木大明神

但宮町左側 神主 小野出雲

宿内往還並住居仕候 立木大明神

神子 伯耆

一 御朱印地高五拾石 浄土宗知恩院末寺

常善寺

右寺宿内江戸ノ右之方境内三千九百九十九坪  
余有之候内往還江地先五間四尺出御座候得共  
往還役等無御座候

一 除地 式反五畝六歩 日蓮宗京立本寺末寺

法性山圓融寺

右寺宿内江戸の左之方七拾壹間余引込往還へ

地先等出無御座候往還役等無御座候

手狹ニ而御休泊ニ相成候義無御座候名木名水

無御座候

一 除地 四畝

淨土宗誓願寺末寺

宝樹山 真願寺

右寺宿内江戸の左之方六拾八間余引込往還之地

先等出無御座候往還役等無御座候手狹ニ而御休

泊ニ相成候義無御座候名木名水無御座候

一 除地 貳畝四步

東本願寺

一 年貢地 壹反三畝六步 布薩山傳久寺

右寺宿内江戸の左之方八拾九間余引込往還江地

先等出無御座候往還役等無御座候

手狹ニ而御休泊ニ相成候義無御座候名木名水無

御座候

一 年貢地 貳反壹畝貳貳步

西本願寺末寺

館定山淨教寺

右寺宿内江戸の左之方四拾三間余引込往還へ地

先等出無御座候往還役等無御座候

手狹ニ而御休泊ニ相成候義無御座候名木名水無

御座候

一 除地 五畝十六步

佛光寺末寺

廣普山真教寺

右寺宿内江戸の左之方四拾貳間余引込往還へ地

先等出無御座候往還役等無御座候手狹ニ而御休

泊ニ相成候義無御座候名木名水無御座候

一 除地 壹反六畝十五步

淨土宗知恩院末寺

佛国山正定寺

右寺宿内江戸の左之方見通し貳拾間余引込往還

へ地先等出無御座候往還役等無御座候名木名水

無御座候尤宿方本陣差支之節御休泊ニ相成候儀

も御座候得共手狹ニ御座候

一 除地 壹反三畝拾五步 佛光寺末寺

一 年貢地三畝拾八步 鈴風山養專寺

右寺宿内江尻の左之方見通し貳拾七間余引込往

還江地先等出無御座候往還役等無御座候手狹ニ

而御休泊ニ相成候義無御座候名木名水無御座候

一 除地 四畝拾六步 東本願寺京金福寺末寺

苗主川 圓教寺

右寺宿地内江戸の右之方三町余引込御座候  
名木名水無御座候

右何連も大門并門前百姓等無御座候

一 往還通掃除之義者宿内者ふ残銘々ニ而仕候

一 重キ御通行之節者其度々領主表江注進仕間之村  
掃除之義領主役人必被相觸村限ニ掃除仕候

一 宿内御並木無御座候

一 宿内一里塚無御座候

但し草津の上ノ方大津宿迄之間一里塚四ヶ所

沓ヶ所 左之塚 共野路村地内 木立松  
右之塚 右之塚 木立松

沓ヶ所 左之塚 共大萱村地内 木立松  
右之塚 右之塚 木立松

沓ヶ所 左之塚 共別保村地内 木立松  
右之塚 右之塚 木立松  
字八町 繩手

沓ヶ所 左之塚 共松本村地内 木立榎  
右之塚 木立榎

一 草津宿の上之方大津宿迄之間立場五ヶ所

沓ヶ所 矢倉村 姥餅  
江戸之方草津宿へ七町上之方大津宿江  
三里半程

沓ヶ所 大萱新田村

江戸之方草津宿へ沓里上之方大津宿へ  
式里半六町

沓ヶ所 勢田橋本村

江戸之方草津宿へ式里八町上之方大津  
宿へ沓里半程

沓ヶ所 勢多鳥居川村

江戸之方草津宿式里余上之方大津宿へ  
沓里半程

沓ヶ所 石場松本村

江戸之方草津宿へ三里余上之方大津宿  
へ半道余り

宿内 沓町目 境井川筋  
式町目

一 石橋沓ヶ所 巾三間半 長七尺五寸

去夏洪水之節流失仕當時仮橋土橋ニ而御座候

字山王川

一 石橋老ヶ所 巾三間三尺 長六尺

字志津川

一 土橋 巾貳間 長四間半

但川中ニ橋杭三本ヅツ式組御座候

去夏洪水之節流失仕当時仮橋ニ而御座候

字聖灵川

一 石橋 老ヶ所 巾三間貳尺 長五尺

宿端上之方井溝筋

一 石橋 老ヶ所 巾貳間半 長貳尺

右橋之修覆掛替共領主ノ御座候

一 板橋無御座候

往還通右町裏

一 砂川堤 長六百九拾老間高サ八尺ノ老丈貳三尺迄  
馬踏老丈三四尺  
拾間ノ拾四五間迄

但し

川上追分村境ノ川下山田村境迄

右普請之儀者領主ノ御座候

一 関柵 無御座候

往還通字坂口

一 埋樋 長貳間五尺 内法五寸

一 埋樋 同断同町 長貳間五尺 内法五寸

一 埋樋 同断東横町 長三間老尺 内法七寸

一 埋樋 同断同町 長三間半 内法六寸

一 埋樋 同断同町 長三間老尺 内法六寸

一 埋樋 同断同町 長三間老尺 内法七寸

一 埋樋 同断同町 長三間老尺 内法七寸

一 埋樋 同断西横町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

一 埋樋 同断同町 長三間 内法四寸

右普請之義者領主御座候

塚樋 無御座候

一 火之元用水 宿内式ヶ所

内

沓ヶ所 東横町ニ御座候

沓ヶ所 三町目ニ御座候

右普請之儀者所普請ニ御座候

一 田地用水往還通江戸之方左リ卅町斗東南ノ方

岡本辺之山ノ字志津川筋江流来往還通江戸之方

右式拾町程西山田之郷馬場村へ流夫より湖水

江落入申候右川筋之水せ起溜メ當宿田地用水ニ

仕候其余者左へ相記し候溜池之水ニ而相用ひ申

候

一 溜池 式ヶ所

内

沓ヶ所 字郡上野東四百間程  
南北百八間余廻りふ等

但し

右者當宿往還通江戸之方左リ十五町程東山寺

村地内山添ニ御座候其流レ并部田村追分村田地

惣水共沓町目式町目之間井門筋上口落合流来當

宿之田地用水へ仕候而十四五町下木ノ川村へ流

夫ノ湖水へ落入申候右溜池水之義者格別旱統之

節者水引落し井川筋ヲ引取田地用水ニ仕候義ニ

御座候

沓ヶ所 字込田東四百間余  
南北百卅間余

右者田地用水ニ御座候

一 悪水堀 式ヶ所

内

沓ヶ所 御本陣九藏軒ニ御座候

巾三尺七寸 長六十三間余

沓ヶ所 三町目四町目之間ニ御座候

巾沓間式尺長六十間余

右普請之義者所普請ニ御座候

一 郷藏 沓ヶ所東西五間  
南北三間

右往還通り江戸より左之方四拾間引込字

酒小路と申所ニ御座候

一 宿内ニ御林無御座候

一 最寄ニ御林無御座候

一 東海道宿内入口往還通り江戸より左之方ニ道印  
題目石杭有之臺石ニ信樂道と御座候  
金勝道

一 掟杭 三本

一 老本 宿内 江戸之方入口ニ御座候

一 老本 宿内 中山道之方入口ニ御座候

一 老本 宿内 上ノ方入口ニ御座候

一 道印石杭老ケ所 宿内御高札際ニ御座候

一 尤 右東海道伊勢道と御座候  
左中山道多賀道

一 宿内家並之外裏通り左右共田畑ニ而山林等

無御座候

一 宿内呑水之義者東横町西横町老町目宮町右之方  
者堀井戸ニ御座候其余之処者井川筋より取水ニ  
御座候尤往還江戸ノ右側ニ老ケ所左側ニ式ケ所  
往還端ニ御座候

一 當宿前後酒食を商ひ候ものニ御座候

一 名物之義者竹根鞭ニ而御座候

一 男者農業之間ニ往還隊第一ニ仕其外日雇隊仕  
女者糸を能へはたを織申候

一 五穀之外時之野菜物銘々相用ひ候分斗仕其外  
ニ多作り他所へ賣出候品等無御座候

一 當宿市立定日之義毎年七月十一日十二月廿五日  
御座候

一 米之津出し之儀矢橋濱迄道法老里八里膳所迄  
海上凡卅町

一 竹木之類船積筏下之場所無御座候

一 御三家様方御飛脚小屋無御座候

一 尤紀州様御通行前後凡三四拾日程七里飛脚与唱  
へ宿内へ御居被成候ニ付御用宿申付候義ニ御座  
候尤御定宿ニ而者無御座候

一 東海道往還宿入口  
砂川

巾式拾七間内

本多隠岐守領分

拾八間 草津宿支配

齊藤主殿様御知行所

九間 大路井村支配

中仙道往還宿内入口 本多隠岐守領分  
一 砂川巾拾三間半内九間 草津宿支配

齊藤主殿様御知行所  
四間半 大路井村支配

右砂川之義平生干川ニ御座候得共大雨ニ而出水仕候節者步行越ニ仕候併川越錢之定者無御座候右川上凡弍里余三里程金勝山川阿星ヶ嶽駒坂山砥坂山觀音寺村桐生村ノ流来リ川下沓里拾町余湖水へ流落申候右川出水ニ而川止リ候程之義者稀ニ御座候ニ付御注進奉申上候若堤切等異変之節者御注進奉申上候尤満水之砌御證文附御用物等者當宿ニ御首置宿役人共御太切ニ御番仕川明キ次第ニ即刻御繼立仕候尤遅刻之義御断書相添奉差上道中御奉行様へ御注進申上候者無御座候仕来ニ御座候

一 川 御高札無御座候

一 川 会所船守等無御座候

一 川ニ而魚取候場所無御座候勿論魚取渡世仕候者無御座候

一 宿内往還より左右見渡候山々

江州野洲郡 東ノ方ニ当リ  
三上山 道法凡弍里半余  
ノ国栗太郎 東南ノ方ニ当リ  
金勝山 道法凡弍里

右引統 砥坂山 桐生山

同国同郡 南ノ方ニ当リ

不動山 道法凡三当リ

同国滋賀郡 西南ノ方ニ当リ

石山 道法凡弍里半

同国同郡 西南ノ方ニ当リ

岩間山 道法凡四里半余

同国同郡 西ノ方ニ当リ

膳所山 道法凡三当リ

同国同郡 西ノ方ニ当リ

三井寺山 道法凡三当リ

同国同郡 西北ノ方ニ当リ

比叡山 道法凡五里余

一 山 獵人渡世之者無御座候

一 宿内何之旧地古城之跡無御座候

一 川 沓ヶ所

右者往還通り草津宿より江戸之方石部宿之間川辺村上鈎村寺内村地内字葉山川平生者橋渡ニ而御座候得共大雨出水之節者步行越ニ相成申候満水之砌御證文附御状箱御用物等者當宿役人共附添参リ右川より上之方川辺村地内ニ而御首置御太切ニ御番仕川明キ次第即刻御越立仕候尤遅刻之義御断書相添奉差上候尤御奉行様へ御注進申上候ハ無御座候



仕来り御座候

- 一 草津宿々登り方大津宿迄之間村名順
  - 江州栗大郡 同州同郡 同州同郡
  - 矢倉村 野路村 南笠村 大萱新田村 大萱村
  - 同州同郡 同州同郡 同州同郡 同州滋賀郡 同州滋賀郡
  - 大庄村 神領村 橋本村 鳥居川村 別保村
  - 同州同郡 同州同郡 同州同郡 同州同郡 同州同郡
  - 中庄村 膳所村 木下村 西莊村 馬場村
  - 同州同郡 同州同郡
- 松本村 大津宿

- 一 一定助郷帳別紙ニ奉差上候
- 一 加助郷村々無御座候

右者五海道御分間御絵図御仕立御用ニ付宿村往還通り之儀御尋ニ付書上候相違無御座候以上

享和三亥年

二月

草津宿 問屋

- 同 六左衛門印
- 同 本右衛門印
- 同 武兵衛 印
- 同 源右衛門印
- 名主 孫右衛門印
- 同 八郎右衛門印

四 (年代不詳)<sup>(a)</sup>

粟太郡志津庄 草津村

一 高千五百五拾七石弍斗弍升

慶長七年御檢地帳之表

此 訳

上田 壹石五斗四升代 四拾四町五反弍畝拾八步

六百八拾五石七斗弍合

中田 壹石四斗代 拾七町三畝弍拾七步

貳百三十八石四斗六合

貳拾三石九斗八升

年寄

甚三郎 印

同 十右衛門印

同 喜兵衛 印

御分間御絵図御用御普請役

皆川定次郎様

小林周介 様

寺沢治部左衛門様

榎本清次郎様

鈴木逸八 様

中畑 九斗代  
九反六畝五歩  
八石六斗五升五合

屋 舗 老石卷斗代  
三反七畝

三拾九石四斗三合

下畑 七斗代  
貳反  
老石四斗

四石七升

田畑合百八町七反六畝八歩  
分米千五百五拾七石貳斗貳升  
此ノ高石数合不申候へ共

荒畑 九斗代  
老町四反五畝  
拾三石五升

御檢地帳ニ書此ことクニ御座候  
小堀新助様御印

老石三斗代  
九町三反六畝貳拾三歩

五拾石 常善寺知行

下田 老石三斗代  
百貳拾老石七斗七升九合

千五百七石貳斗貳升 草津宿之高

内

荒田 老石四斗五升代  
貳拾五町老畝

三十八石六斗五升三合  
從御公儀様被下置候御傳馬地子老万歩  
之分寛永十二亥年より

三百六十式石六斗老升五合

残而千四百六拾八石五斗六升七合

上々畑 老石三斗代  
四町六反五畝十五歩

内

六拾石五斗一升五合

元禄七戌年ノ  
高老斗貳升六合 溝替永引

上畑 老石老斗代  
貳町老反八畝

元禄十五壬午年ノ  
高五斗貳升貳合 表屋敷地永引  
貳口合六斗四升八合 年々萬永引

屋 舗 老石三斗代  
三町拾歩

残高千四百六拾七石九斗一升九合

但し此内三百七十五石六斗九升五合者永荒と

申事ニ御座候

字名松丸池跡 六畝九歩

外ニ同 蓮田池跡 耆反六畝歩

同 大門池跡 耆反耆畝式歩

右三ヶ所合三反三畝式拾耆歩

此高四石三斗八升耆合

延享式乙丑年ノ納ル

御奉行

生嶋又左衛門様

藤井條右衛門様

米式石 砂川 赤根川

両堤請所御年貢延享式乙丑年ノ納ル

一 人数合 式千六百八拾耆人 但し宿内

本家借家并苗主川

とも

一 家数 四百四拾式軒

内

百軒 馬役

百軒 歩役

式軒 社人

八軒 寺方

式百三耆式軒 隠居後家借家

右之外 家数式拾四軒 苗主川

寺 耆軒

一 宿中馬数 百疋

一 苗主川牛 三疋

一 酒株 三ツ 此訳 造り高式百石 文左衛門

造り高六石式斗弥三郎

造り高四拾石 善五郎

一 東海道御見附ノ中仙道わかれ御高札場迄

間数式百七拾間 草津宿東横町

西横町

一 中仙道口見附ノ矢倉村境黒門迄

間数四百四拾三間半 耆町目 式町目 三町目

四町目 五町目 六町目

宮町

町内惣間数合七百拾三間半

宮内町数合 九町

一 草津宿の膳所迄 道法三里

一 同 勢田迄 道法式里八町

一 草津宿の梅木迄 道法卷里半

一 同 山田迄 同卷里八町

一 同 矢橋迄 同卷里

一 同 金勝山迄 同三里

一 同

一 溜メ池五ヶ所

此訳

山寺領ニあり

郡上野池

東方山裾之池ニ而所之間數極リふ  
申候惣平均卷町四方余之池ニ御座  
候池守料として年ニ米四斗ヅツ山  
寺村へ遣し申候

込田池 東西六拾六間 南北平均百七間

大門池 東之方南北五十式間  
西ノ方南北式十四間  
南方 東西式十八間  
北ノ方東西三十一間

蓮田池 東西六拾四間 南北三十六間

松丸池 東西三十五間 南北式拾間

追分村領ニ有

大湯

式ノ湯

追分村領境

野田湯

追分村領ニ在之

かねつき之井關門下  
赤根川筋 井セキ追分村との組合  
字生水老町目東裏ニアリ  
かゑ上ケ池 中ノ町筋井頭かへ上ケ池  
種徒ヶ池 東横町往還端ニアリ  
宮町東裏ニ在  
種徒ヶ池 蓮田井頭かへ上ケ池  
三丁目北ノ堀往還端ニアリ  
水溜メ池

山寺村領之内郡上野池落し樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

埋樋

東西平均八間余南北平均四十四間余  
東西平均十九間式尺南北平均十間四  
尺余  
東西平均三間南北平均式十間  
四匁川筋井セキ右追分村との組合但  
し溝年貢として米式斗年々追分村へ  
遣し申候

長サ七間一尺八寸巾 七寸五分

長サ七間半内法六寸四方

長サ七間内法 巾七寸

長サ七間内法 巾七寸五分

長サ七間内法 巾七寸五分

長サ七間内法 巾七寸五分

長サ七間内法 巾七寸五分

長サ七間内法 巾七寸五分

長サ七間内法 巾七寸五分

長サ七間内法 巾七寸五分

長サ七間内法 巾七寸五分

- 字まと場用水  
同 長サ三間五尺内法四寸四方
- 込田池入樋  
同 長サ三間 内法卷尺貳寸巾卷尺六寸五分
- 込田池の場落し樋  
同 但し立樋有之長サ四間三尺内法四寸四方
- 込田池宮ノ川落樋  
同 但し立樋有之長サ七間四尺
- 同所赤根川口入樋  
同 長サ三間内法貳尺四角
- 字十筋  
同 但し鳥居落戸有長サ九間三尺内法高卷尺巾卷尺五寸
- 字宮ノ後伏樋  
同 長サ拾五間貳尺内法 高七寸 巾八寸
- 字蓮田池入樋  
同 長サ七間 内法 高四寸 巾五寸
- 大門池宮ノ川入樋  
同 長サ三間貳尺内法 四寸四方
- 大門池入樋  
同 長サ卷間 内法 高五寸 巾六寸
- 大門池筋宮川北堤  
同 長サ三間貳尺内法 五寸四方
- 字寺田用水  
同 長サ四間三尺内法八寸四方
- 字北森部下佐兵衛前  
同 長サ卷間 内法八寸四方
- 字上の田追分村領内  
門樋 但し落戸アリ長サ五尺貳寸 高サ貳尺七寸 巾五尺貳寸
- 追分領之内字大湯  
走り卷ヶ所 長サ九尺五寸巾卷間
- 追分村領之内字武ノ湯  
走り卷ヶ所 長サ貳間巾卷間貳尺三寸
- 宮町往還伏樋九兵へ兵介之間  
埋樋 長サ六間貳尺内法五寸四方
- 坂口往還伏樋北權兵へ間南作兵へ  
瓦樋 長サ貳間五尺内法五寸
- 同所 北嘉右二門間 かる間  
同 長サ貳間五尺内法五寸
- 東横町往還伏樋北庄兵へ持間 南權兵へ介間  
同 長サ三間卷尺内法七寸
- 同所 北七郎兵へ間 南長兵へ間  
同 長サ三間半内法六寸
- 同所 北六左二門間 南長兵へ間  
同 長サ三間半内法六寸
- 同所 北清兵へ間 南茂七往還筋連二伏樋長サ七間二相成  
同 長サ三間卷尺内法六寸
- 東横町北弥兵衛南義兵衛傳介間  
瓦樋 長サ三間卷尺内法七寸
- 東横町往還伏樋北傳介南西十兵衛  
石垣樋 長サ三間卷尺
- 西横町往還伏樋勘七次郎八間両側とも  
瓦樋 長サ三間内法四寸
- 同所 往還伏樋二郎八持介持両側共  
同 長サ貳間四尺内法四寸
- 同所 甚四郎両側とも  
石垣樋 長サ三間三尺
- 同所 往還伏樋助 亟右二門間  
埋樋 長サ三間内法四寸

同所 平兵へ間  
久右工門間

一 石垣樋 長サ貳間五尺

同所 北三郎兵へ間 南清兵へ間  
五郎兵へ間 五郎兵へ間

一 瓦樋 長サ貳間三尺内法四寸

同所 甚兵へ間 同側とも

一 埋樋 長サ貳間三尺内法四寸

同所 往還伏樋利右工門間

一 同 長サ三間内法四寸四方

一 御年貢米之船賃米六俵 矢橋村茂兵衛江  
年々遣候

一 立会山組合拾五ヶ村 青地村 馬場村 岡本村

山寺村 矢倉村 大路井村

渋川村 中沢村 岡村

目川村 坊袋村 川辺村

小柿村 追分村 草津宿

右山手代として年々錢三百文ツツ相渡申候

志津庄草津宿

一 正一位立木大明神 鎮座神護景雲元年

光仁天王御宇 宝龜八丁巳年為雨乞勅使御參籠

一 桓武天王 延曆五丙寅年依勅願賜正一位下

本社 東向貳間四方 前五尺四寸 但し該床とも  
兩脇貳尺三寸ツツ大床

中門 巾老間桁行五尺

瑞籬 南北五間東西六間

末社 南方一棟

多賀大明神 龍田大明神

稻荷大明神 加茂上明神

右末社正保貳年 石河主殿頭様御寄附

愛宕権現 辨財天女 山王権現 熊野権現

牛頭天王 廣田大明神 大將軍

押殿 三間四面

神輿藏 桁行貳間半梁貳間

妙法堤三重 高六尺土台三尺六寸四方石

樓門四ツ脚門 桁行貳間 梁老間四尺壹寸

築地 長サ八間但し樓門之兩脇也  
梁四尺五寸

右鈎御所様御寄附之由申傳候

神木 柿 本社乾方ニアリ

護摩堂 本地堂トモ云桁行三間 梁貳間

中尊觀世音菩薩

脇立左 不動明王  
右 多門天

天台宗

普賢院

神宮寺

桁行七間

庵室  
梁三間

御手洗地

内法四尺四方

石鳥居

高サ老丈四尺

巾老丈六尺

境内往古の除地

東西七拾老間三尺余

南北六拾老間

矢倉村領内  
御旅所

れつけいと申所住還る道法  
八十六間 道巾貳間

小社  
貳尺三寸  
老尺六寸

境内  
南北三十四間半  
東西三十四間

正月三ケ日

御膳備へ為天下泰平國土安全  
御公儀様祈禱御領主様御武運

長久

毎月朔日

右同断之御祈禱

正月六日

神事初行の張之神支ト申者  
張之弓ニ御神主執行申候

正月十五日

御祈禱之護摩本地堂ニ而修之  
為御祈禱大般若經転読仕候

正月十六日

御弓之御神事草津の当人三人  
弓射申候前日射場掃除人矢倉

御社領高貳拾三石

二月十二日夜

の相勤申候  
居住之神事

一番尉之者於神  
前薪之能をかた  
どり舞申候

四月朔日

御湯之神事 当家ニ而行

四月二日

夜宮之御神事執行

四月三日祭礼

先前者四月上ノ巳之日ニ御座  
候所近来ハ四月三日定日ニ相  
成申候

六月朔日

御田植之御神支

七月朔日ハ七日迄

夏之讀経為御祈禱於本地堂執  
行之

七月十七日十八日

為御武運長久於本地堂護摩修  
之

九月十日

相撲之御神事

十一月巳ノ日

御火焼之御神支

十二月晦日

歳暮之御神楽

拾九石壹斗六升七合 草津宿  
内 三石八斗三升三合 矢倉村

右者寛永十一戌年

御公儀様為御祈禱御領主様御武運長久石川主殿頭  
様御寄附其後慶安五辰年本多下総守様御寄  
附御代々御黒印頂戴仕是近年々被下置候

神主 小野志摩 宮町居住

社僧 老人明神境内居住

神子 老人宮町 住居

神人 老人宮町 住居

字松丸池之端

山神

南八間半 西六間  
東六間 北九間

一 西本願寺宗直末寺

館定山淨教寺

境内 東西拾九間四尺 御年貢地  
南北三十三間貳尺

慶長元丙申年草創

開基 慶忍

代々持庵ニ而御座候

当住 了義

一 浄土宗誓願寺直末寺

宝樹山真願寺

境内 東西拾壹間  
南北拾間四尺 往古除地

永祿元年建立

中興開基 信譽

兼帶通寺ニ而無御座代々看坊ニ而御座候

当住 儀専

一 東本願寺宗直末寺

布薩山傳久寺

境内 東西貳十三間  
南北貳拾間

但し旧地北ノ方ニ而御座候永祿十四巳年

只今地へ本堂引移申候

右之内貳畝四步者往古除地其余者御年

貢之地ニ御座候

開基之儀寛文九酉年火難之節起録共燒失仕縁

起相知申候

慶長十九年寅年中興開基 善徳以来代々持

ニ御座候

元祿十四巳年再建住持 了誠

宝曆九卯年再建修覆当住惠潮

一 佛光寺宗直末寺

廣普山真教寺



境内 東西三十六間式尺

南北式十卷間

右之内旧地東西拾貳間式尺南北十三間  
半往古<sup>ノ</sup>除地其余者御年貢地ニ而御座  
候

候

開基之義天正拾六年三月火焼ニ付記録等焼失

仕候縁起相知<sup>ニ</sup>申候

天正十七年再建中興開基 法西以来代々持

ニ御座候

寛延三午年修覆再建住持 是敬

当住 是空

一 日蓮宗京立本寺直末寺

法性山圓融寺

境内

東西平均三十六間  
南北平均式十卷間

右之内東西式十五間半南北式十一間往古<sup>ノ</sup>除  
地ニ御座候其余者御年貢地ニ御座候

開基行寂院永祿式末年建立其後寛文九丙年類焼仕  
縁起之義相知<sup>レ</sup>申代々看坊ニ御座候

当住

一 佛光寺宗直末寺

鈴風山養專寺

境内

東西式拾七間余  
南北拾九間余

右之内東西式拾七間余南北拾五間余往古<sup>ノ</sup>  
除地其余者御年貢地買付

開基之儀永正三寅年火焼仕縁起宝物等焼失仕相

知不申候其以後者仮屋ニ而天文年中称讚与申者

再興仕候尤代々持庵ニ御座候

当住圓貞

一 浄土宗知恩院直末寺

佛国山地藏院正定寺

但し塔頭無御座候尤末寺卷<sup>ケ</sup>寺矢倉村正念

寺ト申有之候

境内

東西三拾三間余  
南北十五間余

往古<sup>ノ</sup>除地

開基由來書之儀弘治元年卯十一月寺類焼仕

ニ付相知<sup>レ</sup>申候

寛延三午年本堂再建 住持見譽

当住妙譽

感妙院日應

一 東本願寺宗京福寺下

出主川圖教寺

境内 東西拾間三尺  
南北拾三間

右之内旧地東西九間老尺南北八間三尺往古

除地其残りハ御年貢地ニ御座候

開基之儀先年川切レ之節書物共流失仕候ニ付年号

并住持名前とも相知レ申候元和九亥年再興中興

開基道明以來代々看坊ニ而御座候

寛延元辰年本堂修覆圖教仕候 当住専了

御他領ニ有之候旦那寺名前

一 西本願寺宗

京明覺寺末平井村

長善寺

一 同宗

末寺繕村

本覺寺

一 同宗

末寺上笠村

宗門寺

一 同宗

末寺守山宿

称名寺

一 同宗

京淨樂寺末大林村

覺明寺

一 同宗

興正寺末大路井村

光円寺

一 淨土宗

金勝阿弥陀寺末部田村

西方寺

一 同宗

末部田村

無量壽寺

一 同宗

黒谷末大路井村

覺善寺

佛光寺宗

直末寺野村

一 仏光寺宗

直末沢村

一 時宗

光明寺

一 本願寺宗

京金蓮寺末小柿村

一 同宗

常勝寺

一 同宗

直末寺繕村

一 同宗

西淋寺

一 同宗

直末寺金ヶ森村

同宗 拾五ヶ寺

因宗寺

赤野井御坊与□今宿村

専徳寺

一 米四拾三石五斗四升八合

右從御公儀様年々被下米多羅尾四郎右衛門様

御米頂戴仕候

此訳三拾五石六斗四升九合

寛永十四年御飛給として被下置候

七石寛文五巳年問屋肝煎給として被下

置候

八斗九升九合

天和三亥年石部山迄之道五町五十四

間分御飛脚増給米

一金五拾兩

右者万治子年從

御公儀様永拜借被為仰付宿中配分仕候其後配分之  
金子沓兩ニ付錢五文ヅツ日錢ニ取集メ金子五百兩  
分之銀三拾目都合仕御地頭様より御借付被成下利  
足銀年々ニ被下置配分仕候

一金三拾貳兩貳步

右者正徳貳辰年御改所被為仰付候ニ付諸入用とし  
て乾金六拾五兩被下置候処大金ニ相成候節ハ半減  
金子右之通年々從御公儀様頂戴仕候

一米貳百拾九俵

右者御傳馬役家之内難勤馬株七十三人江殿様ハ  
被下置天和年中ハ年々頂戴仕候

一金五拾兩 馬買金

一金百八拾兩 馬飼料金 人足夫助金

右貳口者享保十巳年

御公儀様ハ頂戴仕候 御地頭様ハ御貸付被成下利  
足金年々被下置配分仕候

一 草津宿大助郷貳拾九ヶ村

勤メ高老万七千九百拾五石

七千五百貳拾貳石六斗 御領分高  
沓万三百九拾貳石四斗 御他領高

此記

御領分拾ヶ村 野路村 矢倉村 岡村

渋川村 追分村 中沢村

笠川村 山寺村 岡本村

御倉村

御他領拾四ヶ村 大路井村 南小柿村

北小柿村 目川村 市川原村

野 村 川原村 馬場村

上笠村 糺 村 沢 村

小平井村 坊袋村 安養寺村

御領分 部田村 鈎り村

御他領 入交り 五ヶ村 平井村 南笠村

集 村

五 文化十四丁丑年四月

明 細 帳

栗太郡四図庄

慶長七年御檢地帳表

草津村

一高千五百五拾七石貳斗貳升 小堀新助御印

内

五拾石者 御朱印地常善寺

千五百七石貳斗貳升 草津宿高

内

三拾八石六斗五升三合

右者從 御公儀様被下置御傳馬高地子壹万歩之

分寛永十二亥年より

残り高

千四百六拾八石五斗六升七合

内

六斗四升八合 年々万永引

内元禄七甲戌年より壹斗貳升六合溝替永引

同十五壬午年より五斗貳升貳合裏屋敷地永引

五百五石四斗四升八合五勺永荒与申事ニ御座候

旧記ニハ三百七十五石六斗九升五合

永荒与申事ニ御座候トアリ

九百六拾貳石四斗七升五勺 当時毛附高

一高合千四百六拾七石九斗壹升九合

内

田方 九拾五町九反四畝八歩

内

上田 四拾四町五反貳畝拾八歩

但シ壹石五斗四升代

此分米六百八拾五石七斗貳合

中田 拾七町三畝廿七歩畝

拾七町三反廿七歩

但シ壹石四斗代

此分米貳百三拾八石四斗六合

下田 九町三反六畝廿三歩

但シ壹石三斗代

此分米百貳拾壹石七斗七升九合

荒田 貳拾五町壹畝歩

但シ壹石四斗五升代

此分米三百六拾貳石六斗四升五合

壹石五斗四升代モアリ

畑方屋敷合拾貳町八反貳畝歩

内

壹畑 四町六反五畝拾五歩

但シ尅石三斗代

此分米六拾石五斗尅升五合

上畠 式町尅反八畝歩 但シ尅石尅斗代

此分米貳拾三石九斗八升

中畑 九反六畝五歩 但シ九斗代

此分米八石六斗六升五合

下畑 貳反 但シ七斗代

此分米 尅石四斗

荒畑 尅町四反五畝歩 但シ九斗代

此分米 拾三石五升

屋舖 三町拾歩 但シ尅石三斗代

此分米三拾九石四升三合

屋舖三反七畝歩

但シ尅石尅斗代

此分米 四石七升

外ニ

字尾丸池跡六畝九歩

字蓮田池跡尅反六畝歩

字大門池跡尅反尅畝十二歩

一 三反三畝貳拾尅歩

延享貳乙

メ三ヶ所合 丑年

米極地

此米尅石六斗貳升尅合

高四石三斗八升尅合 池跡田乙丑ノ高入

起帰改直

一 尅町三反八歩

此米 尅石貳斗

同断 旧記無

高四石七斗五升貳合

池跡田改直壬辰

一 砂川堤請所

同断

此米 貳石

旧記ニハ砂川赤根川

御奉行生嶋又左エ門様 南堤請取御年貢ト有

菅井條右エ門様 延享乙丑年

一 古川筋請所

旧記無

此米 尅石六斗

畑五反五畝拾八歩

古川場請所年貢

メ 此分米五石四合

丙寅ノ納分起帰

畑成改直

右盛九斗

旧記ニ高元五拾石之処

本多様膳所へ御入城之砌ノ廿三石ニ成ト也

一 御社領高貳拾三石也

右ノ内 米拾八俵へ社僧ニ遣ス  
メ式拾俵へ神宮ニ遣ス  
メ三俵へ神子ニ遣ス  
メ式俵へ神人へ遣ス  
右旧記ニアリ

地方

内

拾九石卷斗六升七合 草津宿

此田方卷町三反八畝式拾六步

三石八斗三升三合 矢倉村

右者寛永十一戌年

御公儀様為御祈禱御領主様武運長久

石川主殿頭様御寄附其後慶安五辰年〆本多下総守様

〆御寄附御代々御黒印頂戴仕是迄年々被下置候

(神社關係略)

一溜池四ヶ所<sup>(5)</sup>

此 記

山寺領ニ有  
郡生野池

東方者山樞之池ニ而所々間敷難極窓平  
均卷町四方余之池也  
但池守料として米四斗ツ山寺村へ年ニ可遣事

尾丸池

東西四間 南北貳拾間

込田池

東西六拾六間 南北平均百七間

字鐘突

新池

東方 西南四間 西方 西南三十四間半  
南方 西南六十八間 北方 西南六拾六間

但シ堤とも

(付紙)

旧記

一溜池五ヶ所トアリ

此 記

山寺領

郡乗池

本文之通り

尾丸池

東西三十五間南北廿間

込田池

本文之通り

大門池

東方南北五十二間 西方南北廿四間  
南方東西廿八間 北方東西三十一間

字

蓮田池

東西六十四間南北三十六間

追分領ニ有

一 大湯 東西平均八間余南北同四十四間余

同  
一 二湯 東西平均拾九間式尺南北同拾間四尺

追分村領境ニ有

一 野田湯 東西平均三間南北同貳拾間

追分領ニ有

一 鐘 突

四國川筋高追分村ト組合  
但シ溝年貢米貳斗ツ同村へ遣ス田元〆  
割出之事

字寺田

一 門 樋

長サ貳間 高サ六尺 旧記無  
巾卷丈四尺

字生水一町目東裏  
一 カエ上ヶ池

但シ中之町筋井頭カエ上ヶ池

字衛門池老町目西裏  
一 同 断 東西三間南北式間四尺 旧記無

字本願寺辻東町往還端有  
一 種ツケ池

宮町東裏ニ有  
一 同 断

三町目北端往還通  
一 水溜池 東西 南北

山寺領之内郡生野落シ樋  
一 埋 樋 長サ式拾七間内法 高六寸五分  
巾七寸

旧記 長サ七間一尺八寸  
立樋 長サ老丈  
高サ老間半  
旧記 内法六寸四分

山寺村領之内郡生野池尻伏樋  
一 埋 樋 長サ七間 内法 高六寸五分  
巾七寸

砂川掛越北境岡村領南堤部田村領  
一 同 四十三間内法 高老尺  
巾老尺式寸

文化九末十一月伏替ル御地頭ル右樋被仰付候得共御断申  
是迄通旧記ニハ長四十四間三尺内法此通ニテ相成候

字三町東用水  
一 同 式間式尺内法 高四寸  
巾五寸五分

字的場用水  
一 同 三間五尺内法四寸四方

込田池入樋  
一 同 三間 内法 高老尺式寸  
巾老尺六寸五分

但シ鳥居落シ戸有  
右文化十四丁丑ル右被仰付事  
込田池的場落シ樋  
一 埋 樋 旧記ニハ 長サ三間五尺  
内法四寸四方  
長サ四間三尺内法四寸四方但シ立樋  
有

右同年ル壺樋被付候事

込田池宮町へ落シ樋  
一 同 七間四尺

但シ立樋有

同所赤根川入口樋  
一 同 三間 内法式尺四方

旧記ニ 高サ老尺 巾老尺五寸  
但シ鳥居落シ戸アリ

字十条筋  
一 石 樋 同九間三尺内法 高老尺  
巾老尺五寸

但シ鳥居落シ戸有 旧記ニ無

字宮ノ後伏樋  
一 埋 樋 同拾五間式尺内法 七寸  
八寸





同断  
一 瓦樋 同三間 同 四寸四方

同断  
一 同石埋樋トアリ 同式間五尺 同 同断

同断  
一 同 同式間三尺 同 同断

同断  
一 同 同式間三尺 同 同断 旧記無

同断  
一 埋樋 同式間三尺 同 同断

同断  
一 瓦樋 同三間 同 同断

右者文化十四丁丑年石垣ニ被仰付候

一 石垣樋 同四間 旧記ニ無

但シ石ぶた

東横町往還伏被  
一 瓦樋 同三間三尺 同五寸四方 旧記ニ無

同断  
一 同 同三間式尺 同 同断旧記ニ無

同断  
一 同 同式間五尺 同 同断 旧記ニ無

此分文化十四丑年石垣ニ被仰付候  
右三ヶ所寛政七卯年新願ニ付被仰付候

一立會山組郷 拾五ヶ村

部 田村 馬場村 岡本村 山寺村 矢倉村

大路井村 渋川村 中沢村 岡村 目川村

坊袋村 川辺村 小柿村 追分村 草津

右山手代として錢三百文宛年々相渡可申候

一御年貢米之船賃米六俵ツツ年々矢橋浦茂兵衛方へ  
遣シ申候トアリ旧記ニ

一野あらし禁棒杭 拾五ヶ所

一石橋 五ヶ所

訳

老町目 境井川筋長サ七尺五寸  
式町目 由三間半

字 三王川 同 六尺 三間三尺

字 四凶川 同 四間半

旧記ニ曰 右下地ハ土橋ニ候所享和ニ戌年大水ニ流レ  
其後石橋ニ相成申候

字 生灵川 同 五尺 三間式尺

矢倉村境 同 貳尺貳間半  
右新福寺湯筋也尤御大名御泊リ之節外堀也

一 惣田數九拾五町九反四畝八步

内

五拾石者 常善寺領

此 訊

上田 老石五斗四升代 上中之町 貳反四畝步  
高三石六斗九升六合

中田 老石四斗代 中之町 壹反步  
高老石四斗

下田 老石三斗代 糖田 五反貳畝貳拾四步  
高六石八斗六升四合

下田 老石三斗代 筋違 三反老畝四步  
高四石四升七合貳勺

上田 老石五斗四升代 八町繩手 三反步  
高四石六斗貳升

同 同斗代 キロメキ 九畝十步  
高老石四斗三升七合三勺

同 同斗代 猪子辻 七畝拾八步  
高老石壹斗七升四勺

同 同斗代 ダグ田 五畝十步  
高八斗貳升壹合三勺

同 同斗代 中中ノ町 五反七畝步  
高八石七斗七升八合

同 同斗代 サガリハ 八畝步  
高老石貳斗三升貳合

同 同斗代 寺ノ後 壹反五畝步  
高貳石三斗壹升

中田 老石四斗代 干束 貳反拾八步  
高貳石八斗八升四合

上田 老石五斗四升代 上高添 貳反步  
高三石八升

上田 同斗代 鐘突 七畝拾步  
高老石壹斗貳升九合三勺

上田 同斗代 魚之前 七畝拾四步  
高老石貳斗壹合貳勺

中田 老石四斗代 合三町四反四畝步 三反八畝貳步  
高五石三斗貳升九合三勺

反別合三町四反四畝步 分米五拾石也 大向 高五石三斗貳升九合三勺

内訊 上老町九反老畝十貳步 此分米廿九石四斗七升五合五勺

中六反八畝廿步 此分米九石六斗壹升三合三勺

下八反三畝廿八步 此分米拾石九斗壹升壹合貳勺

一人数貳千六百四拾八人 但ッ宿内

但ッ宿内

本家借家苗主川共

一 百軒 馬役  
 一 百軒 歩役  
 一 式軒 社人  
 一 八軒 寺方  
 一 式百三十式軒 隱居  
 後家  
 借家

一 東海道見付 〆 中山道別  
 御高札場迄

間數式百七拾間 東横町  
 西横町

一 中山道見付 〆 矢倉村境黒門迄  
 町中惣間數四百四拾三間半

老町目  
 式町目  
 三町目  
 四町目  
 五町目  
 六町目  
 宮町

宿内町數 右九町

一 草津宿 〆

膳所迄道法 三里  
 勢多迄同 式里五町  
 梅ノ木迄同 老里半  
 山田迄 同 老里八町  
 矢橋迄 同 老里  
 金勝山迄同 三里

一 東海道宿入口  
 砂川 巾式拾七間

内 拾八間 膳所領  
 草津宿

九 間 齊藤左門領  
 大路井村

一 中山道入口  
 砂川 巾拾三間半  
 内

九 間 草津宿  
 四間半 大路井村

一 酒株 四ツ  
 此訳

六 安政四丁巳閏五月四日長崎へ為御用御越被遊候

長崎御奉行兼御勘定奉行

水野筑後守様

四日守山宿御立  
当宿御休  
大津宿御泊

御勘定御

高橋  様

御勘定

小田直次郎様

日下部官之丞様

御普請役御三方様

右之節御尋ニ付奉差上候書附之表左ニ記

御尋ニ付奉申上書附

一 宿高千四百六拾八石五斗六升七合 本多下總守領分  
東海道草津宿

一 往還長七百拾三間半

但し 矢倉村境より中仙道迄四百四十三間半  
中仙道より東海道大路井村境迄七百七拾間

造高 貳百石 文左衛門

同 四拾石 善五郎

同 七拾石 平兵衛

同 六石貳斗 五郎兵衛

一家數四百七拾三軒 家數人別共當巳年宗旨奥へ帳之通  
尤當主川村込而

一 人數貳千五百八十式人 内男千貳百五拾人  
女千三百卅式人

一 旅籠屋六拾六軒 當節鑑札相渡有之高  
但本陣兩家除之

一 飯盛 四十六人 近年定鑑札三十五札自明し役之者へ御免五枚  
田中東造へ御免五枚

一 白米金壹兩ニ付七斗一升四合 今日木錢米代頂戴之割を以  
壹升ニ付八十八文之見込

一 麦金壹兩ニ付八斗八升

一 大豆金壹兩ニ付八斗三升

一 小麦金壹兩ニ付四斗八升

一 金壹兩ニ付錢六貫五百四十八文 皆問屋ニ而兩替へ致し  
相庭ニ而

一 酒造家四軒

五郎兵衛株高百六十八石五斗六升  
沖右二門 百八十八石  
長二郎 百十式石六斗四升  
四人持 百十式石六斗四升  
松右二門 株高之三分也  
義御定之通也

一 夕年漬米三百八十式石八斗式升六合四勺

卷升ニ付 上貳百貳拾文  
並百六十文

一 燈油絞家五軒  
外ニ 伝助郎伝七 次郎八郎吉藏 孫右ニ門 八十右ニ門 耐兵衛近年新規無株 渡せ也 種老石ニ付貳斗三升 ノ見込

一 但し老ケ年菜種千五百八十石メ上り三百拾六石  
此代銀百貳拾四貫八百貳拾目 油老石代三百九十五文 皆京大津へ遣候駄賣直也

一 当所産物 鞭 鍵屋重兵衛賣上六十五兩  
荒物屋九右ニ門賣上四十五兩  
但し両家とも江戸へ賣捌凡半分通也

右御尋ニ付乍恐書付を以奉上候處  
相違無御座候以上  
巻ケ年賣上ケ高金百拾兩斗

問屋  
安政四丁巳閏五月四日 年寄

御勘定  
御奉行所様  
御用人中

七 慶応元乙丑年十一月

立木社奇附田地之事

神主小野長門

立木社奇附之事

一 屋舖 貳拾四歩 高老斗四合

一 字門田 中田 老畝拾歩 高老斗七升四合

一 同所 上田 老反廿歩 高老石六斗四升

一 同 老反老畝六歩 高老石七斗貳升五合

一 字宮後 上畑 老畝歩 高老斗三升

一 同所 拾 歩 高四升三合

一 上々畑 貳畝廿歩 高三斗四升七合

反別合 貳反八畝歩

右之田地奇附仕候依而神主江相預御年貢諸拂物共都  
而屋敷田地ニ付入用之分相立差配可致事

一 字鐘突 下田 八畝六歩 高老石六升老合五勺

右之田地為神供料神主へ相預御年貢并諸拂物共都而  
右田ニ付入用之分相立差配可致事

一 米 七斗六升貳合四勺

右者御社領被下米之内御供料并神主給共配当之  
分ニ御座候間神主江相渡可申事

一 米 三石五斗也

右者神主給として先規之振合を以宿方より可遣事

右者依願為宿内安全今般地下持屋敷并田地之内奇附  
仕相預申候処相違無之候然ル上者自今弥以社務無懈  
怠御年貢諸拂物等遅滞無之可被致候為後念證状如件

慶応元年

庄屋

十二月

駒井与左衛門印  
深尾又市 印

立木社

神主

八

近江国栗太郡

立木社由緒書

近江国栗太郡草津矢倉兩村産神

正一位立木大明神

祭神武甕槌命

祭礼毎年四月初巳日

中古ハ四月三日

社傳云當社立木大明神之儀者人皇四十八代称徳天  
皇御代神護京雲元丁末年六月十六日常陸國鹿嶋よ  
り遷セ給ふ其鎮座し給ふ所の藤樹柿樹今にあ里此  
柿木につきて深き謂連のあるが故に立木大明神と

号す立木の名是によれり

人皇四十九代光仁天皇宝龜八丁巳年冬大旱して近  
江國湖水宇治川水將絶依之湖辺神社江

勅願おりて中臣諸魚と以当社江祈禱 阿ら勢給ふ  
則神惠感応ありて翌年春三月大ニ雨降る

同年六月廿一日勅によりて中臣諸魚社を造営す此  
時神階をおくら勢給ひて

正一位立木大明神之

勅額を賜ふ土俗傳へ候也

光仁帝の御宸翰な里と以へり但し年曆相立為雨覆  
朽し此額落て破碎たり然れとも文字の金泥粲々と  
して光輝あり惜哉文字のふ金後世の散失を恐れて  
破片を集め中古より匣中に納おかれ利

長享元丁末年將軍義尚公栗太郡鈎村ニ在陣之時当  
立木社江立願あり其後願成就ニ依て四脚門奉納あ  
りと申傳へ今ニ鈎村ニも其名残あるなり

神社啓蒙曰

立木神社在近江國草津驛札辻祭神与春日同

社家者流日当社垂跡与春日同躰神也于今以藤蔓為  
神愛草云々

扶桑捨葉云

烏丸光広郷之東乃道の記ニ云草津を通るに道のほ

とりに東にむかひたる鳥居ミえてい木ふかき森あり里人にとへは春日勧請と申ふしおかみて神もまたいつくをさして

わかるらん

これも春日の森とこそきけ

神宝 武甕神鹿嶋よりうつり給ふ時天廣弟所杖の御弟なり

末社 十五座

境内 方老町余除地

御旅所 在矢倉村除地字列請也云

慶応四戊辰年

神主

閏四月

小野佐渡

中臣秀圓

九

明細帳

近江国栗太郡

草津村

一 村高千五百五拾七石貳斗貳升 草津村

内

高貳百八拾老石三斗貳升八合五勺無地荒永引

高五拾石者

常善寺上地分

此反別

上田

老町九反老畝拾貳歩 老石五斗四升代  
此分米貳拾九石四斗七升五合五勺

中田

六反八畝廿歩 老石四斗代  
此分米九石六斗 老升三合貳勺

下田

三畝廿八歩 老石三斗代  
此分米拾石九斗 老升老合貳勺

高千七拾石六斗四升三合

田方

此反別

上田四拾貳町四反六畝拾七歩 老石五斗四升代

此分米 六百五拾三石九斗七升老合

中田拾五町九反八畝拾八歩 老石四斗代

此分米 貳百貳拾三石八斗三合

下田八町五反歩 老石三斗代

此分米 百拾石四斗九升九合

荒田五町六反八畝貳歩 老石六斗四升代

此分米 八拾貳石三斗七升

高百五拾五石貳斗四升八合五勺 畑并屋敷分

此反別

上々畑五町三畝廿八歩老厘 老石三斗代

此分米六拾五石五斗壹升貳合

上畑 貳町壹反七畝廿五步 壹石壹斗代

此分米貳拾三石九斗六升貳合

中畑 九反五畝九步 九斗代

此分米 八石五斗七升七合

下畑 壹反八畝貳步 七斗代

此分米

荒畑 壹町四反四畝拾三步九厘 九斗代

此分米 拾三石貳合

屋敷 貳町九反五步 壹石三斗代

此分米 三拾八石八斗九升壹合五勺

屋敷 三反六畝廿貳步 壹石壹斗代

此分米 四石四升

一 新田高拾四石壹斗三升七合

内

高四石三斗八升壹合 池跡田乙丑ノ納

此反別

下田 三反三畝廿壹步 壹石三斗代

高五石四合 古川堤請取年貢起掃畑成

此反別

中畑 五反五畝拾八步 九斗代

高四石七斗五升貳合 池跡田改直壬辰ノ納

此反別

下田五反九畝拾貳步 八斗代

一 小物成米貳石者 砂川堤并赤根川堤込田池堤

請取年貢

東京方大路并村境ノ西京方矢倉村境迄  
一 宿地内往還長七百拾三間半 道幅三間余

但

宿内町並 東西貳町 町數九町  
南北七町

東横町 西横町

壹町目 貳町目 三町目 四町目

五町目 六町目 宮町

一 右往還道橋普請之義者旧御藩ノニ御座候

一 往還通宿折曲リケケ所

一 往還通山坂等無御座候一躰平地御座候

名前等無御座候

一 傳馬所 壹ヶ所

但往還通四町目東京ノ右側ニ御座候

尤地面之義ハ御年貢宿方ノ上納仕居候



一 東京之方石部宿江道法貳里半拾七町五十五間

一 西京之方大津宿江道法三里半六町

一 往還通東京之方右之方江道拾貳ヶ所

内

中山道守山宿道法壹里半

山田浜へ道法壹里八町

其外者野道并近郷へ村道木ノ川村へ道法  
凡十五町程

一 往還通東京之方左之方江道拾三ヶ所

内

近江國甲賀郡金勝寺へ道法九里

同國同郡信樂多羅尾耆ヶ所道法九里

其外野道寺道并近郷村道追分村へ道法拾町

部田村へ道法十五町

一 宿内人別 貳千七百八拾六人

内男千三百貳拾人

女千四百六拾六人

一 宿内社寺  
戸数合八百七拾六軒

内社 壹ヶ所  
寺 拾ヶ所

家持 貳百四拾貳軒

借家 六百拾八軒

一 御高札場 高サ老丈三尺  
長サ老丈五尺  
横五尺五寸 石垣高サ貳尺六寸

右御高札場東京右之方東海道中仙道追分  
二御座候

一 往還通掃除之儀者宿内者ふ殘銘々ニ而仕候

一 宿内往還長サ七百拾三間半但シ兩側ニ家居御座候

一 宿内御並木無御座候

一 宿内一里塚無御座候

一 正一位立木大明神 鎮座神護景雲元年

右者往還通東京右之方 東西七十間余  
南北

右境内ニ

本社 中門 瑞籬

拜殿 楼門 神堂

神輿藏築地 石ノ鳥居

御手洗池 石燈籠

右之内四ツ脚楼門并左右築地者鈎リ之御所様

御寄附与申伝候

但足利九代義尚公上鈎寺内村御在陣被為遊

候旧地鈎之御所と申伝御座候

末社 一棟 石川主殿守様御寄附

多賀大明神 龍田大明神

稻荷大明神 加茂上明神

末社 一棟

愛宕権現 弁財天女

山王権現 牛頭天王

広田大明神 大將軍

右境内名木名水等無御座候

一 浄土宗知恩院末寺

常善寺

右寺往還江地先五間四尺出御座候

一 日蓮宗京立本寺末寺

圓融寺

右寺宿内東京方左之方七十一間余引込往還へ地  
先等出無之候

一 浄土宗京誓願寺末寺

真願寺

右寺宿内東京方左之方六十八間余引込往還へ地  
先等出無御座候

一 東本願寺末寺

伝久寺

右寺宿内東京方左之方八十九間余引込往還へ地  
先等出無御座候

一 西本願寺末寺

浄教寺

右寺宿内東京方左之方□引込往還江地先等  
無御座候

一 浄土宗知恩院末寺

正定寺

右寺宿内東京方左之方見通シ廿七間余引込往還江  
地先等出無御座候

一 佛光寺末寺

養專寺

右寺宿内東京方左之方見通シ廿七間余引込往還  
へ地先等出無御座候

一 東本願寺末京金福寺末寺

苗主川村圓教寺

右寺宿地内東京方右之方三町余引込二御座候

宿内卷町目式町目井川筋

一 石橋卷ヶ所 巾三間半 長七尺五寸

一 石橋卷ヶ所 巾三間三尺長六尺

一 石橋卷ヶ所

一 石橋卷ヶ所

一 石橋卷ヶ所 巾式間 長四尺半 但川中ニ而橋枕三本ツツ式組御座候

一 石橋卷ヶ所

一 石橋卷ヶ所 巾三間式尺 長五尺

一 宿端上之方井溝筋

一 石橋卷ヶ所 巾式間半 長式尺

右橋之修覆掛替共旧御藩ニ御座候

往還通右町裏

一 砂川堤 長六百九拾卷間川下山田村境迄

但シ

馬踏卷丈三四尺 敷拾間拾四五間迄

右普請之儀者旧御藩ニ御座候

一 川御高札 無御座候

一 川会所船守等 無御座候

一 川ニ而魚取之場所無御座候勿論魚取渡世仕候

者無御座候

東海道往還宿内入口

一 砂川 巾式拾七間内 拾八間草津宿支配

一 砂川 巾式拾七間内 九間大路井村支配

一 砂川 巾式拾七間内 九間草津宿支配

一 砂川 巾式拾七間内 四間半大路井村支配

右砂川之義平生干川ニ御座候得共大雨ニ而出水仕候節者步行越ニ仕右川上式里余三里程金勝山川

阿星ヶ嶽駒坂山砥坂山觀音寺村桐生村ニ流来リ川

下卷里拾町余湖水江流落申候右川出水川止リ候程

之儀ハ稀ニ御座候若堤切等仕異変之節者御注進奉

申上候

一 宿内往還より左右見渡シ候山々

江州野洲郡

三上山

同州栗太郡

金勝山

右引続 砥坂山

同国同郡

田上不動山

同国滋賀郡

石山

同国同郡

岩間山

同国同郡

膳所山

同国同郡

三井寺山

同国同郡

比叡山

一 山嶽人渡世之者無御座候

東之方ニ当リ道法凡式里半余

東南ノ方ニ当リ道法凡式里

桐生山

南之方ニ当リ道法凡三里

西南之方ニ当リ道法凡式里半

西南之方ニ当リ道法凡四里半余

西ノ方ニ当リ道法凡三里

西ノ方ニ当リ道法凡三里半余

西北ノ方ニ当リ道法凡五里余

一 宿内何之旧地古城之跡無御座候

一 宿内ニ御林無御座候

一 最寄ニ御林無御座候

一 東海道宿内入口往還通東京ノ左之方ニ道印題  
目石杭有之申候

臺石ニ信楽道金勝道と御座候

一 掟杭三本也

但 老本宿内東京之方入口ニ御座候

老本宿内中山道之方入口ニ御座候

老本宿内西東之方入口ニ御座候

一 道印石杭卷ケ所宿内御高札際ニ御座候

尤 右東海道いせ道  
と御座候

左中山道多賀道

一 宿内家居之外裏通り左右共田畑ニ而山林等無  
御座候

一 宿内呑水之義者東横町西横町老町目宮町右之  
外者堀井戸ニ御座候其余之処ハ井川筋より取

水ニ御座候

一 当宿市立定日之儀毎年七月十一日十二月廿五  
日ニ御座候

一 米之津出之儀矢橋浜辻道法老里六町膳所迄海  
上凡三拾町

一 竹木之類船積後下之場所無御座候

一 字郡上野池落之樋  
埋 樋 長拾老間 内法 高六寸五分  
巾七寸

一 立 樋 長老丈 内法 六寸四方

一 字郡上野池十字伏彼  
埋 樋 長七間 内法 高六寸五分  
巾七寸

一 字砂川掛越  
埋 樋 長四拾五間三尺 内法 高老尺  
巾老尺貳寸

一 字上野田  
門 樋 高三尺五寸 上下島居高四尺  
巾四尺 長五尺 上ノ方闕板高貳尺七寸

一 字的場  
埋 樋 長四間半 内法 四寸四方

一 字込田池入樋  
埋 樋 長三間 内法 高老尺貳寸  
巾老尺六寸五分

一 字込田池の場落シ樋  
埋 樋 長四間三尺 内法 四寸四方

一 字込田池赤根川ノ入樋  
埋 樋 長二間 内法 貳尺四方

一 字込田池宮川ノ落シ樋  
埋 樋 長七間貳尺 内法 八寸四方

一 字同所  
立 樋 長四尺五寸 内法 五寸四方

一字十條 樋 長九間三尺 内法 高老尺  
 一埋 樋 長九間三尺 内法 巾卷尺五寸  
 一字宮後伏穢蓮田江掛越 樋 長拾五間式尺 内法 高八寸  
 一埋 樋 長拾五間式尺 内法 巾卷尺式寸  
 一字大ッ池主川入樋 樋 長三間式尺 内法 五寸  
 一埋 樋 長三間式尺 内法 六寸  
 一字大門池江宮川北堤 樋 長三間式尺 内法五寸四方  
 一埋 樋 長三間式尺 内法五寸四方  
 一字寺田 樋 長四間三尺 内法八寸四方  
 一埋 樋 長四間三尺 内法八寸四方  
 一字寺田 樋 長三間高六尺巾卷丈式尺  
 一字大湯 樋 長九尺五寸 兩側板老尺  
 一門 樋 巾卷間 兩側板老尺  
 一字柳川湯 樋 長式間 兩側板老尺  
 一門 樋 巾卷間式尺三寸 兩側板老尺卷寸  
 一字上野田 樋 高式尺七寸巾四尺式寸長五尺式寸  
 一門 樋 高式尺七寸巾四尺式寸長五尺式寸  
 一字鐘突 樋 高九尺巾式間長式間  
 一門 樋 高九尺巾式間長式間  
 一字十條 樋 高五尺五寸巾三間  
 一門 樋 高五尺五寸巾三間  
 一字宮ノ後 樋 高五尺五寸巾三間老尺  
 一門 樋 高五尺五寸巾三間老尺  
 一字八町繩手 樋 高三尺五寸巾四尺卷寸  
 一門 樋 高三尺五寸巾四尺卷寸  
 一字イハノ前 樋 高四尺巾五尺四寸  
 一門 樋 高四尺巾五尺四寸  
 一字森部 樋 高三尺巾四尺  
 一門 樋 高三尺巾四尺  
 一字同所 樋 高老尺五寸巾三尺  
 一門 樋 高老尺五寸巾三尺

一字込田 樋 高四尺巾卷間半  
 一門 樋 高四尺巾卷間半  
 一字下り葉 樋 高四尺巾五尺四寸  
 一門 樋 高四尺巾五尺四寸  
 一字池尻 樋 高四尺巾卷間  
 一門 樋 高四尺巾卷間  
 一字寺ノ後 樋 高四尺巾五尺四寸  
 一門 樋 高四尺巾五尺四寸  
 一字同所落ッ樋 樋 長六間 内法高四寸巾六寸  
 一埋 樋 長六間 内法高四寸巾六寸  
 一字同所 樋 長六尺 内法四寸四方  
 一立 樋 長六尺 内法四寸四方  
 一字新池入樋 樋 長老丈 内法高八寸巾老尺式寸  
 一埋 樋 長老丈 内法高八寸巾老尺式寸  
 往還坂口伏袂 樋 長式間五尺 内法五寸  
 一瓦 樋 長式間五尺 内法五寸  
 同所往還伏袂 樋 長式間五尺 内五寸  
 一瓦 樋 長式間五尺 内五寸  
 同所同斷 樋 長三間老尺 内法七寸  
 一瓦 樋 長三間老尺 内法七寸  
 同所同斷 樋 長三間老尺 内法六寸  
 一瓦 樋 長三間老尺 内法六寸  
 同所同斷 樋 長三間老尺 内法六寸  
 一瓦 樋 長三間老尺 内法六寸  
 一瓦 樋 長三間老尺 内法七寸  
 東横町往還伏袂 樋 長三間老尺 内法七寸  
 一瓦 樋 長三間老尺 内法七寸  
 石垣樋 樋 長三間 内法四寸  
 西横町往還伏袂 樋 長式間四尺 内法四寸  
 一瓦 樋 長式間四尺 内法四寸  
 同斷 樋 長三間三尺  
 一石垣樋 樋 長三間三尺

- 同断 瓦 樋 長三間 内法四寸
- 同断 瓦 樋 長三間 内法四寸
- 同断 瓦 樋 長三間五尺 内法四寸
- 同断 瓦 樋 長三間三尺 内法四寸
- 同断 埋樋 長三間
- 宮町往還伏被 埋樋 長三間 内法五寸
- 同断 瓦 樋 長三間 内法五寸
- 同断 瓦 樋 長三間五尺 内法五寸
- 同断 瓦 樋 長三間三尺 内法四寸
- 西横町往還伏被 瓦 樋 長三間三尺 内法四寸
- 同断 瓦 樋 長三間三尺 内法四寸
- 三町目往還伏被 瓦 樋 長四間
- 石埋樋 長四間

右普請之儀者旧御藩ニ御座候

一 火之元用水 宿内式ヶ所

- 内 壱ヶ所 東横町ニ御座候
- 壱ヶ所 三町目ニ御座候

右普請之義者所普請ニ御座候

一 田地用水往還通東京之方ニ左リ三拾町斗東南之方

岡本村辺之山ニ字志津川筋江流来往還通東京之方ニ右式拾町程程西山田之郷馬場村江流夫より湖水江落入申候右川筋水せき溜メ当宿田地用水ニ仕候 其余者左ニ相証シ候溜池之水ニ而相用ヒ申候

一 溜池 式ヶ所

- 内 壱ヶ所 字郡上野 東西百間程但シ 南北百八間余廻リニ等 右者当宿往還通東京之方ニ左リ十五町程東山寺村地内山添ニ御座候其流れ并部田村追分村田地惡水共壱町目式町目之間井川筋上江落合流来当宿之田地用水ニ仕候而十四五町下木ノ川村へ流夫より湖水江落入申候右溜池水之義格別旱統之節者水引落シ井川筋ニ引取田地用水ニ仕候義ニ御座候
- 壱ヶ所 字込田 東西百間余 南北百三拾間余
- 右者田地用水ニ御座候

一 惡水堀 式ヶ所

- 内 壱ヶ所 式町目三町目間東之方ニ御座候
- 壱ヶ所 三町目四町目之間ニ御座候
- 壱ヶ所 三町目長六拾間余
- 壱ヶ所 三町目四町目之間ニ御座候
- 壱ヶ所 三町目長六拾間余

右普請之義者所普請ニ御座候

一 郷藏 卷ヶ所 東西五間南北三間

右往還通東京より左之方四拾間引込字酒屋小路与  
申所ニ御座候

右之通御座候以上

近江國栗太郡草津村

(明治四辛未年十二月) 年寄

深尾園吉郎 印

宇野長治郎 印

八田 茂八 印

庄屋

田中平右衛門印

大津縣

膳所御出張所

(註)

(1) 駒井家文書一五ノ一〇の前半は、寄進状、御判物之字

御請取書(弘化元甲辰年十一月)、寺社明細書(文化

元甲子年)などがあるが、ここでは省略した。

(2) 年代不詳であるが、符箋で「是より已下拾貳紙一綴著述

時代不分明 追考 尤宝曆年中已後享和三亥年までの

間之事ト被存候 人別式千六百八十一人ト在三年ノ事

也 年号 干支重テ考ヘシ」とある。

(3) この年の明細帳のみ、駒井家文書一五冊ノ一に収めら

れているが、便宜上、ここに収録した。

(4) 内容は立木大明神関係のことで、前掲二二―二四頁と

ほぼ同じである。

(5) 符箋で左のような記載がある。

旧記 一 溜池五ヶ所トアリ

此訖

山寺領 郡生野池 本文ノ通り

字 尾丸池 東西三十五間

字 込田池 南北廿間

字 大門池 本文ノ通り

蓮田池 東方南北五十二間

東方南北廿四間

西方東西廿八間

北方東西三十一間

東西六十四間

南北三十六間

(6) この前に、「慶応四戊辰年二月 御一新ニ付神事改正

之規則」があるが、ここでは省略する。また、ここに

あげた明細帳は、明治四年草津村から大津県膳所御出

張所あて提出したものであるが、その内容はほぼ享和

三年御分間御絵図御用宿方明細書帳に拠っている。た

とえば道標(道印石杭)の文字に「右東海道いせ道と

御座候」と書いてあるが、実際はこの道標は文化一三

年(一八一六)に建替えられて「右東海道いせみち

左中山道多賀道と

なっている。それにもかかわらず誤って報告している

のは、古い明細帳を踏襲したとしか考えられないのである。したがって利用する場合には注意が必要である。